

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)		
開催日時		令和 7 年 2 月 1 3 日 (木) 1 4 時 0 0 分 ~ 1 5 時 5 7 分		
開催場所		総合学習センター 2 階 セミナールーム		
出席者	委 員	1 2 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 3 人 (ゼロカーボン・資源循環推進担当部長、廃棄物政策課長、他 1 1 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 報告 (1) 令和 6 年度ごみ質測定調査結果について (2) 高齢者等のごみ出し支援事業 (ふれあい収集) について (3) ごみ減量 P R 室の新設について 3 議題 (1) 有料化・戸別収集の検討について ア 戸別収集について (2) 令和 7 年度相模原市一般廃棄物処理実施計画について 4 その他 5 閉会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

定足数確認の上、開会した。

2 報告

(1) 令和6年度ごみ質測定調査結果について

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(藤倉委員) 相模原市では汚れたプラスチックは一般ごみとして取り扱っている。

例えば、カレールーが残るレトルトパックは綺麗に洗わない場合は燃やすごみにしている。つまり、燃やすごみとして出されたプラスチック製容器包装の中には、市民としては正しく分別しているものと、本来はプラとしてリサイクルできるものと2つある。それをどのぐらい減らせると思うか。

また、食品ロスの食べ残しと直接廃棄、過剰除去等の内訳が分かれば教えていただきたい。

(事務局) ごみと資源の日程・出し方の冊子でも中身を使い切り拭き取ってくださいとお願いしている。市民は汚れが取れないものを一般ごみにしていると思うが、基準の明確化を図っていききたい。

食品ロスは食べ残しと手付かず食品の2つの項目で調査していて、食べ残しは4.45%、手付かず食品は2.58%であった。前回は、食べ残しは8.05%、手付かず食品は1.72%であったので、食品ロスは9.8%から7%、食べ残しは8.05%から4.45%に減り、手付かず食品は1.72%から2.58%に増えた。

また、プラスチック製容器包装の14.4%のうち、フィルムシートは7.69%、容器包装に関わる成型品は5.66%。汚れたプラスチックは、容器包装に当たらないフィルムシートは0.51%、それから袋関係は合わせて3%前後であった。

(藤倉委員) 市はプラスチックをどこまでは減らせるか。市民が分別をきちんとして、汚れているから資源化できないものは何%と見込んでいるのか、つまり14%は実際にどこまで減らせるのかという質問である。

(事務局) 今回の調査で汚れたプラスチックという形で仕分けはしていないため、数字にはできないが写真を見ると汚れていないプラスチックがある。ま

だ減らせる余地があると考えられる。また、その他のごみの中にはプラスチック成型品があり、これに関しては法律もでき、各自治体は順次一括回収を進めている。相模原市も今後、プラ製容器包装とプラスチック成型品の一括回収が見込まれるので、プラ製容器包装も資源としての分別がより進む余地があると考ええる。

(藤倉委員) グラフの燃やすごみに含まれる資源化可能物の部分は、全て資源化できるので市民は頑張ろうと思うが、例えば紙類でもピザの箱のように資源化できないものは燃やすごみである。本来、プラスチックは軽微な汚れであれば容器包装として回収するべきと思うが、汚れているものは燃やすごみとしているので、この資源化可能物のうち、どこまで減らせてどこまでは仕方ないものかは情報として必要である。組成調査も大事だがそれを踏まえた上で市の政策の目標値を持たれると良い。

(浅賀委員) レトルトのカレー等は油も入っているので簡単に取れない。洗剤と水をたくさん使って出すべきか、それとも一般ごみにするかはいつも悩む。

ごみの有料化は困るが、ごみの減量や資源化を掲げるのであれば、徹底的に洗ってでも資源化に回すのか、ある程度は仕方がないのかは明らかにして欲しい。

(事務局) 中身を使い切って軽くすすぐ或いは拭き取ることをお願いしているが、きれいにする程度が分かりづらいところがあると思う。分別冊子には写真を載せているが、資源化を進めるためにはどの程度の洗浄が必要なのかをもう少し分かりやすく示していきたい。

(松平委員) ごみ質調査結果は 10 地区を平準化して一つの表にまとめているが、市街化地域と津久井地域、集合住宅のそれぞれの内訳もあると、各地域の課題が見えてくると思う。今後は可能であれば示してほしい。

(竹田会長) ごみ置場を見ても以前に比べてごみ量が少ないと感じているがもっとごみが少なくなれば良いと思う。

(2) 高齢者等のごみ出し支援事業（ふれあい収集）について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(藤倉委員) 本審議会これまで議論してきた戸別収集とは全く切り離した形のモデル収集なのか。例えば、一般ごみの日に一般ごみを出していなければインターホンを鳴らす形のふれあいがある。これは戸別収集とは全く別の仕組みという理解で良いか。

(事務局) ご自宅からごみを収集する意味ではふれあい収集も戸別収集も同じで

ある。今回のふれあい収集は、地域でゴミ出しが困難な方がいて、ボランティアレベルではやりきれないというニーズがあったことも踏まえ、高齢者や障がい者を対象にしたものである。

ふれあい収集は週1回収集であり、戸別収集の場合は集合住宅は集積所に排出されたゴミを収集するが、ふれあい収集では集合住宅であっても各部屋の扉前まで取りに行くので、制度設計は大きく異なっている。ふれあい収集を進めることで収集量や収集時間の把握という点では、戸別収集の検討材料に使えるかも知れないが、制度の仕組みとしては全く別物である。

(浅賀委員) 市内3地区でモデル実施とある。相模原市はとても広いがどの地区か。地区はまだ決まっていないのか。

(事務局) 実施地区は決定段階に入っているが、例として緑区であれば橋本地区や大沢地区、中央区であれば田名地区や大野北地区、南区であれば相模台地区や大野南地区という規模感になり、かなり広い地区になると思う。地域にもお知らせしないといけないので喫緊に決めたいと思う。

(浅賀委員) 地域により環境が異なるのでその点も考慮しないといけない。どのような視点で行うのか。

(事務局) 住宅が点在する中山間地域もあれば、戸建住宅が密集しているところ、駅前でマンションに集積しているところもある。様々な地区を選び、色々な課題の検証に取り組み全体の作業量や収集件数が把握できた後、体制を整えて全市展開を目指したいと考えている。

(大河内委員) 収集対象地区以外にお住まいの方々への周知はどのようにする予定なのか。

(事務局) 全市に対する幅広い周知は必要だと思っている。モデル地区の中でも対象者だけに周知すると対象者以外の方からの声もあると思うので、あらゆる手段を使い全市にモデル事業の実施をお伝えする。

また、対象地区にはより細かく地区全体、それから対象者向け、場合によっては地域包括支援センターなど対象者を日頃ケアしている方への個別周知等も考えている。

(3) ゴミ減量PR室の新設について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(松平委員) ゴミ減量PR室の人員体制や組織はどのようなものか。

(事務局) 今のところ3～4名の体制を見込んでいる。

(竹田会長) 子ども会が無くなるにつれ資源回収が無くなってきているので、こうすれば資源回収ができるというPRが必要だと思う。以前は相当な量の資源を地域で集めていた。子ども会が無くなり資源回収業者が見つからず、どのように探せば良いのか分からない。そのような質問は市に寄せられていないか。

(事務局) 今のところそれほど入っていない。

3 議題

(1) 有料化・戸別収集の検討について

ア 戸別収集について

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(浅賀委員) 多くの人はごみの減量化や資源化への高い意識をすでに持っているように感じている。平塚市の減量効果に疑問はあるがコストや不適正排出が増えることは心配である。また、とても強い風が吹いている日に家の前にごみを出せばごみは飛んでいってしまう。私たちは集積所に網をかけるなど対策をしっかりとっている。集積所の管理についても、その住民で編成し自治会員でなくても一緒に管理しているが、他でも同じようなところはあると思うのでその地域の繋がりの中でしていることはぜひ捉えて欲しい。

街の美観、カラス対策も含め、強風などのリスクがある中で一つのところを皆で管理することはこれからとても大事だと思う。戸別にごみを出すのはやはり理解できない。

(山田委員) 資料の5番のところで戸別収集になるとコストが増加するとあるが、平塚市のようにごみ量が減った場合はコスト減も想定される。具体的にごみは何パーセント減った場合、どの程度のコスト減額になるかは市民にも分かりやすく、ごみの減量に繋がる意識付けになる。ごみ減量PR室もその辺りを考慮していただけると良い。

(松平委員) パッカー車は通常2トン車で街中を回る。収集して一杯になるとそこから清掃工場に行きごみを下ろしたら先ほどの場所まで戻り、ごみを収集するパターンで1日に合計で4～5回ほど清掃工場を往復する。

平塚市のようにごみが16%減ったら2トン車の場合はいつも一杯になる場所でもまだ320kgの余裕があるので、さらに先まで収集に行けることから往復5回のところが4回で済むかも知れない。色々な自治体にも調査して減量と減額の関係などの細かい調査を行い、検討材料にして

いただけると良い。

(中島委員) 先程ごみ集積所の話が出ていたが、集積所の管理は地域で行っている。本市ではその多くは自治会で管理し修繕なども行っているが、利用者は自治会員に限らず半数は非自治会員という状況である。

自宅の近くに少し大きなごみ集積所があるが、ルールを守らない人がいて困っている。集積所に出しさえすれば、後は市が収集して処理してくれると思っている人が結構いて、決められた曜日に出さなかったり、分別していなかったりして、収集後に残されているケースが散見される。年末最後の収集終了後にごみを持ち込む人がいて、出せないように入口を塞ぐと今度は集積所の外に置いてしまい、カラスが突いて散乱し周りの方が迷惑した事例もあった。以前はこのような状況ではなかった。

自治会だけでは管理できない状況になっていて、戸別収集で意識を変えられることも考える必要がある。ルールを決めても守ってもらえない現実があることも踏まえて、この問題を考えなくてはいけない。

(竹田会長) ごみ集積所の管理は自治会がするものであり、自治会以外の者がするものではないと思われるようだ。

自治会に入っていないのにごみ当番の札が回ってきたので、ごみ当番の札をごみ集積所に出してしまう人がいる。次に行った人が札を拾ってきて捨てた人に戻す。そうすると不動産屋から、自治会に入っていないのに何故ごみ当番の札を回すのかと自治会長に電話が来る。

色々な人がいるのでやはり大変である。先ほど自治会でなくてもきちんと管理している話もあったが、このような話が一般的であり、抜本的な対応をお願いしたいという意見だと思う。

(松平委員) 街が綺麗になるというところで、収集後はごみが全部なくなることと思うが、それで街が綺麗になるイメージを持たれる方がいる。相模原市で一番嫌いなのが、幹線道路の街路樹に黄色い網を張りごみを溜めること。収集がない日も街路樹に黄色い網が巻かれているのを見ると街の美観に非常に悪いと思うが、海老名市のアンケート資料では良くなったと感じる人は3割弱いるので、戸別収集の導入でやはり街は良くなると解釈すべきと思う。

先月タウンニュースに原委員の記事が載っていた。相模原市のごみ収集や中間処理は週6日、週休1日であり、後の人が入りにくいので見直しが必要であると提言したことが載っていた。

私は退職後はマンションの管理人をしているが資源収集に毎週来る必要ははたしてあるのかと思う。一般ごみや資源ごみについて、戸別収集

の検討では今のままで考えるのではなく収集体制の見直しや組み換えを考えて、今の収集で無駄になっているところを削ぎ落としてから、最も効率的な形を色々調べて提案した方がより深まるし収集作業員の労働環境の向上にも繋がる。この場での回答は難しいと思うので、様々な収集パターンの組み合わせを検討し週休2日の相模原市にしていきたい。

(浅賀委員) この審議会ではごみの有料化や戸別収集について答申するものではないと聞いた。しかし、審議会の流れを見ると実施したいと感じざるを得ないがそれはまだ止めていただきたい。市民の意見はこの審議会の中が全てというわけではない。様々な市民意見を広く聞いてから市政を進めていただきたい。

私の地域ではしっかりした区画に集積所が作られているが、道路際にネットで集積しているところは幾つもある。収集しやすいところに集積所を作っていると言われた記憶がある。

作業員が効率良く収集できる体制はとても大事であるが、戸別収集では路地まで車両が入って行かなければいけない。そうすると高齢者や小さい子どもには危ないので効率が悪くなると思う。

強風や鳥獣などからきちんとごみを守るためには、家の前にごみ袋を置くわけにはいかない。風に飛ばされない、カラスが来ないように対策をしないと考えにくい。

総合的に様々な場面を想定し、高齢者、障がい者、外国籍の方、一人暮らし、若い人、色々な人がいるので、多くの人に話を聞いてから進めてもらいたいと感じた。話を急がないでいただきたい。

(松平委員) 戸別収集は市内 100%で実施するものではないことをご理解いただきたい。収集車で後退しないと出られないようなところに戸別収集に行くことはありえない。その場合、入口付近に集積所を作る。車がすれ違えるところは戸別収集できるが、収集困難地区は集積所を併用する。また、中山間地域のように家が離れている所は集積所を使うなど柔軟に考えていく。全て戸別収集することはあり得ないと思う。

資料 17 番のカラスや猫等への対策でポリバケツは参考にしないでいただきたい。ごみ収集後に強風が吹けば無くなり、市に苦情が来てもどうしようもない。戸別収集の容器は有料化などにより斡旋価格で欲しい人に提供するのが戸別収集の対策である。斡旋することでごみ減量を努力している方に返していく。

カラスはホバリングができないので、ごみ袋を門扉に引っかけて出す

工夫も家の造りに応じて採用するべきと考える。

(大河内委員) ごみ収集車が一杯になったら清掃工場に行きまた戻るとのことだが、大体1日に何往復しているのか。

(事務局) ごみの収集量によるが午前が2往復、午後が3若しくは2往復。相模原市は週2回収集しているので、週後半では収集量が少ない傾向がある。

(大河内委員) 収集時間が2.1倍の根拠が把握しきれない部分があるが、集積場所は8倍に増える。袋小路でごみ収集車の出入りの時、後退しなければいけないところは考慮して算定されているのか。

(事務局) 戸別収集の収集箇所数は、住宅の形態や世帯数から概算したものであり、袋小路等の影響までは考慮していない。詳細に検討していく上では緻密な整理が必要と考えている。

(大河内委員) 戸建住宅だが戸別収集の対象にならない所が結構出てくる可能性があり、そうすると説明も非常に丁寧かつ納得していただく必要がある印象を受けた。

(竹田会長) すぐに進めないでという話もあるが、どんどん進める状況にもないようだ。これからも皆様のご意見をもらいながら、提案の素地を作っていくということだと思う。

(中島委員) 審議会での意見を最終的に市がどこまで尊重してくれるのか心配である。この1年間の検討が無駄にならないように進めていただきたい。

(事務局) この1年間に審議会のグループワークで様々なご意見をいただいたが、次回審議会でも最終的な意見のとりまとめを行いたい。

その後、市としてどのように受け止め、向き合うのか一定の立場を固めることになる。その先は未定であるが、市としての考え方を反映した叩き台を審議会に諮ることも一つの方法と考えている。

(中島委員) 審議会での意見が最終的にどこまで市が代弁していただけるのか心配である。我々の意見があまり通らない結果にならないように進めていただきたい。

(藤倉委員) 戸別収集だけではなく技術や制度で解決できることもあるのではないかな。

例えば集積所の管理については、住民の善意に頼るのではなく市が雇用契約を結び、収集日の朝2時間立ってもらい、分別が悪い人にはその場で指導し最後は集積所を掃除するまでを仕事とする。自治会に頼らないシステムを考えることももしかしたら一案かも知れない。

車両については、コストもかかるが電気自動車等でさらにグリーン電力を使うことを考えれば多少は解決策になるかも知れない。

大きな集合住宅では管理人がいると思うが、小さなアパートでごみの分別が不十分で不動産屋も不遜な態度だったというのであれば、不動産屋が借り手に対し指導するような義務を課す条例を作るなど、戸別収集だけではなく様々な解決方法があると思う。

監視カメラは全てに付けられないが似たような仕組みがないか、合わせて考えた上で、最終報告書が両論併記になるのか、ある方向性を示すのか分からないが、方法論はたくさん考えた方が良い。

(浅賀委員) 若い人、高齢者、ひとり暮らしの方とか、色々な方が暮らしている中で、全ての人がごみを出さざるを得ない。街の環境も整えながら自治体の責務としてフォローしていくことが本来のごみ行政だと思う。

ごみは昔よりは減っていると実感しているが、一般消費者だけではなく、生産者、業界も含め考えや実態等も情報交換しながら、総合的に相模原市のごみ行政、ごみの減量化や資源化を考えていくべきと思うので、一緒にできる環境を作ってもらいたい。

(2) 令和7年度相模原市一般廃棄物処理実施計画について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(事務局) 本編もご覧いただきご意見等があれば2月21日(金)までに事務局にお寄せいただきたい。

4 その他
特になし

5 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	浅賀 きみ江	さがみはら消費者の会		出席
2	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
3	内田 勝久	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		出席
4	内山 雅之	相模原市農業協同組合		欠席
5	近江 良一	相模原商工会議所		欠席
6	大久保 匡	相模原廃棄物対策協議会		欠席
7	大河内 由美子	麻布大学		出席
8	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		欠席
9	栗岡 理子	公募		欠席
10	須藤 みね子	さがみはらリサイクル連絡会		出席
11	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会	会 長	出席
12	中島 勝平	相模原市自治会連合会		出席
13	畑野 栄久	津久井地域不法投棄防止協議会		出席
14	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		欠席
15	藤倉 まなみ	桜美林大学	職務代理者	出席
16	堀川 伸晴	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
17	松平 和也	公募		出席
18	矢部 健	相模原地域連合		欠席
19	山田 とし子	相模女子大学		出席